

じんけん瓦版 第64号

発行日：2016年10月23日

発行：日本聖公会東京教区 人権委員会

趙博講演会「ヘイトスピーチって、何だ?!」

関東三教区生野委員会運営委員 香山洋人

9月24日(土)、第52回「日韓の歴史を学ぶ会」が牛込聖バルナバ教会で開催されました。「日韓の歴史を学ぶ会」の主催団体である「関東三教区生野委員会」は「聖公会生野センター」発足とともに活動を開始、年に二回「日韓の歴史を学ぶ会」を行い、その内容をブックレットにまとめるなどの活動を行ってきました。今回のテーマは「ヘイトスピーチって、なんだ?!」です。

ヘイトスピーチは数年前から右翼団体が行い始めた街頭活動で、デモ行進をしながら「朝鮮人を殺せ」などの信じられない暴言を繰り返して行きます。コリアタウンとして知られる新大久保で「日の丸」を振りながら、「朝鮮人は出て行け、いい朝鮮人も悪い朝鮮人も殺せ」と叫んだり、京都では民族学校に押しかけて生徒に対し大音量で同様の暴言を吐き続けたりします。言論の自由を理由にこれを放置する人々もいる中、京都地裁では人種差別であり人権侵害であると認定されました。一昨年、日本聖公会総会もこの問題の根絶のために取り組むための議案を可決、今年に入って国会でも法律が作られています。

今回の講師である趙博(チョウ・バク)さんは、ミュージシャン、舞台俳優、文筆業、大学講師のほかラジオのDJとしても活動する多才な方で、ヘイトスピーチが行われる現場で直接反対運動を行う「カウンターデモ」にも参加してこられました。「パギヤン」の愛称で親しまれご自身を「歌劇派芸人」と呼ぶ講師による講演会は、まさに一つの舞台のような迫力と楽しさに溢れるものとなりました。

始めに、城南キリスト教会の最寄駅、大阪の鶴橋駅前撮影された「ヘイトスピーチ」の動画が映し出されます。中学二年生の少女が「朝鮮人が憎くて憎くてたまらない、この国から早く出てってください!」、「あなたたち調子に乗っていると日本人は<鶴橋大虐殺>を起こしますよ!」と叫び続け、周囲の大人たちが喝采

とともに拍手をするという実にショッキングな内容です。趙さんは、暴言への怒りではなくこの少女の人生が心配だと語り始めました。教師はちゃんと対応できるのか、友達はあるのだろうか。「愛国マシン」として親に育てられたという彼女がいつの日か自分のしたことに気付いた時、いったいどうなるのだろうか。ヘイトスピーチの背後には「格差」に象徴される日本社会の歪みがある、日本人が危機に瀕しているという問題提起は深刻です。

続いて、国会が定めた「ヘイトスピーチ解消法」が批判的に紹介されました。この法は差別はいけないと宣言して努力を呼びかけるだけで、マイノリティを国籍だけで捉えた上に禁止条項など反差別の実効性が欠如している。国会決議自体は評価するが日本がすでに批准している「人種差別撤廃条約」との整合性が重要だという主張は明快です。

「ヘイトスピーチ」という形で現れた在日差別の根底には植民地支配と天皇制がある、というのが趙さんの考えです。近代日本の国家イメージ、日本人像を作り上げたものの一つに「教育勅語」があるが、ここで掲げられた徳目は天皇制を末永く守るために必要な徳目であり、戦前の「臣民」の思想が今も克服できていない。大学で教育学を講じてきた趙さんならではの分析です。

差別は排除だけではありません。今の祝日のほとんどは天皇と皇室に関する日、叙勲の制度は天皇が褒めてくれるという制度です。「同じ人間ではないか」というソフトな表現の中にある同化の思想は現実にある差別を隠蔽してしまいます。一方、在日の中には差別を跳ね返すために大韓民国や朝鮮民主主義人民共和国の国民であることを誇ろうとする人もいますが、現実の差別からの逃避にしかならないのだと趙さんは語ります。マイノリティ性を創造的なアイデンティティにできるのか、国家や民族を根拠にしない人権とは何か、在日が求めるべき

解放のイメージとは何かという大きな問いを提出して講演は締めくくられました。質疑に対して丁寧にお答えいただいた上にご持参のギターとハーモニカで二曲披

露というサービス付き。井上ひさし作詞の釜石小学校校歌のメッセージが一同を元気付けてくれました。

声明文と「障害者」週間の集いのご案内

人権委員会 執事 トマス 日高 馨輔

NCC「障害者」と教会問題委員会は、1981年の「国際障害者年」以来、毎年11月の第2聖日の週を「障害者」週間として呼びかけています。今年は11月13日(日)～19日(土)の一週間になります。11月19日(土)には、「『障害者』週間の集い」を開催致します。

わたしたちが互いを真に尊重し、偏見や差別から解放されることは、主のみ心であり、真の愛と平和の共生の道であります。今日ようやく進められてきた、「障害者権利条約」や、「差別解消法」などへの取り組みは、なお前進させて行かなければならない日本社会の大切な課題です。先の障害者施設での惨忍な殺傷事件は、大きな驚きとともに強い衝撃と深い悲しみそして、憤りさえ覚えます。神からわたしたち一人ひとりに与えられた大切な命、価値の無い命はありません。すべての命が価値ある存在なのです。

わたしたち一人ひとりどのような人にも生きる“意味と資格”があたえられ、それぞれ多様な生き方が許されているのです。それらを脅かしたり、取り去ったりすることはだれもしてはならないのです。このような状況を生み出す土壌が作られつつある社会にたいして、今改めてわたしたちNCC「障害者」と教会問題委員会はこの声明を通して訴えます。今年度の

集いは(命の大切さを見つめて)というテーマです。この事件について、当委員会委員の中村雄介さんが発題いたします。今こそ、私たちは、命の尊さを互いに確認し、分かち合い、声を発して訴えねばならない時です。また今回は、今、日本と海外の教会とともに「マイノリティ宣教センター」設立に向けて奔走しておられる方々のお働きも伺い、その思いを共有いたします。

「ヘイトクライムを容認、また黙認することで、それが障がい者、民族的少数者、高齢者、またどんな種類のマイノリティに対してであれ、最後に何が本当に起こるのかを、この度の事件は今わたしたちが生きるこの現代社会の上にそれが何であるかを暗示しているのではないのでしょうか？」祈りを共にして、語り会いましょう。どうぞ皆さんのご出席をお願い致します。

「障害者」週間の集い

命の大切さを見つめて

-「ヘイトクライム」と「障害者殺傷事件」を乗り越えて-
日時 2016年11月19日(土) 11:00～15:00
参加費 1,000円(昼食代含む)
場所 神田キリスト教会(千代田区外神田3-5-11)
問合せ・申込み 橋本司祭(090-5008-8006)

NCC「障害者」と教会問題委員会 声明

—「相模原障害者施設殺傷事件」をめぐる私たちの訴え—

私たちNCC「障害者」と教会問題委員会委員は、去る7月26日未明、神奈川県相模原市で起こった「相模原障害者施設殺傷事件」に、大きな衝撃と深い悲しみを覚えました。犯罪容疑者自身の「障害者はいないほうがよい」との言葉は、ヒットラーの優生思想の影響を受け、現実社会に根深い「功利主義的発想」から実際に何の役にも立たない障害者は「安楽死」させることがよいとの考えに基づくものでした。彼の殺意がいかに強かったかは、比較的短い時間であれほど多くの殺傷ができたことでも分かります。彼にとっては、社会的にも家族的にも「不幸の種をとり除く正義感」があったからこそ、残虐な行為自体にも迷いはなかったのではないかと推察します。

同容疑者がなぜこのような行動を起こしたのかの真因はまだ十分わかりませんが、この事件を彼個人(一人の犯罪者)だけの問題としてはなりません。誰にとっても同じ時代の社会に生きる人々の考えや生き方の影響は大きく強いのではないのでしょうか。表面的には「一人ひとりのいのちを尊ぶ・生きる権利は平等」と謳いな

がら、実際は社会的・経済的能力を持つ者がより高く評価される現実、その矛盾したひずみの中で生きる閉塞感の「はけ口」に、社会的弱者や少数者を差別し排除する人々が一部に現われて来ているのです。

しかし私たちはいま、ある先達の鋭く深い言葉を、鮮明に思い起こします。

「もし、社会が強い者（賢い者）だけで構成されていたら、その争い、闘いのために自滅したかも知れない。しかし、社会は弱い者、愛や配慮を必要とする者の存在によって、辛うじて保たれている」と。

人間の常識的な「功利主義的発想」を拒み、明確に障害者や少数者の存在意義が告げられています。

キリストにある平和、キリストによる平和を求め、いかなる社会的・経済的価値観をも超えて、根源的な『人間の生命・いのち』を第一義的に尊重し合う共生社会を目指すことこそが、この地上の世界に真の平和をもたらす究極の希望であることを、私たちは信じ訴えます。

2016年9月25日

NCC(日本キリスト教協議会)「障害者」と教会問題委員会
委員長 橋本克也

~~~~~ 日本聖公会・人権セミナー2016に参加して

人権委員 佐々木國夫（葛飾茨十字教会）

10月4日－6日、管区の人権セミナー2016が郡山のセントポール会館を主会場に開催された。テーマは「原発と人権 in 福島」。

初日、原発問題 P.の池住圭さんから、福島の住民に視点を向けた活動について話を伺った。原発周辺市町村は、放射線量によって区分され、帰還困難区域は7市町村にまたがる。除染基準は $0.23\mu\text{Sv/h}$ 、他の地域、名古屋市では $0.04\mu\text{Sv/h}$ であり、除染基準も不安を募っている。中間貯蔵施設を大熊町、双葉町が受諾したが、建設予定地は、地主が死亡・不明のため地権者を特定できず、受け入れが遅れ、自宅の除染ゴミは庭先に置かざるを得ない。地下水の流入防止の凍土壁工事は効果少なく、汚染水は毎日400t増加、現在88万tにもなっている。教会の庭の朝顔や紅葉の葉が肥大化したり、枇杷やモミの木の下から葉が出たり、植物に異変が生じている。震災関連死した人は、福島県2,038人（自死85人）、宮城県920人(45人)、岩手県459人(37人)と福島県が圧倒的に多い。原発事故が住民を苦しめている。

廃炉は、人もロボットも現場に入れず、高濃度汚染瓦礫を片付けられない。現在、石棺方式が検討されている。工事費用3兆円は国民負担、耐用年数は100年、半減期を計算すると1000年以上石棺しておくことになるが、チェルノブイリ4号炉の石棺は28年経ち、深刻な放射能漏れ問題が起きている。莫大な費用と不安を後世に残すことになる。

ドイツは、2011年6月、「2020年までにすべての原発稼働停止」を閣議決定、7月、法改正した。福島原発事故直後に設置した‘安全なエネルギー供給に関する倫理委員会’が、5月に将来のビジョンを描いた報告書「ドイツのエネルギー大転換～未来のための共同事業～」をメルケル首相に提出した。報告書は、**半永久的に次世代に廃棄物処理を課すのは深刻な「倫理＝いのち」の問題、原発の安全性が高くても事故は起こり得る、原発は事故が起きると他のどんなエネルギーよりも危険**と断じている。

二日目、越山司祭さんの案内で原発周辺をバスで巡った。帰還困難区域を走る国道6号では、大熊町辺りで数台の線量計が一斉にピーピー警報音を発した。手元の線量計は $5.5\mu\text{Sv/h}$ を示していた。少々こめかみ辺りがひりひり感じた。不耕作地の十数ヶ所に汚染土を詰めた黒いフレコンバッグが集積されていた。バッグが劣化し破れ目から雑草が生えているものが多く見られた。中間貯蔵施設工事が遅れ、最終貯蔵施設は未解決の状況の中、北海道稚内に近い幌延町が受入を表明、周辺の町村は反対しているとのこと。補助金が、また地域の分断を生じさせている。

福島原発事故の風化が進み、原発再開ありきの政策がまかり通っている。風化させないために福島を訪ね、現場を見て現地の人話を聴き、感じたことを思いを込めて伝えていきたい。

聖バルナバミッションとコンウォール・リー女史に学ぶ

展示会と講演会

ハンセン病者の人間回復をめざして展開したコンウォール・リー女史の
聖バルナバミッションは今年で創設後100年の年を迎えました。

国立ハンセン病資料館 入館料無料

- 展示会 2016年10月26日（水）～30日（日）9：30～16：30
- 講演会 ① 2016年10月29日（土）13：30～15：00 1F 研修室
「画像で見る聖バルナバミッション100年」
講師 司祭 松浦信
草津聖バルナバ教会・聖慰主教会牧師リーかあさま記念館事務局長
- ② 2016年10月30日（日）13：30～14：20 1F 研修室
「ハンセン病を通して福祉を考える」
講師 新田さやか 東日本国際大学准教授
- ③ 2016年10月30日（日）14：30～15：30 1F 研修室
「聖バルナバミッションとリー女史の働き」（仮題）
講師 中村茂 キリスト教史学会会員 前フェリス女学院中高教諭

主催 日本聖公会北関東教区

聖バルナバミッションとリー女史記念事業推進委員会

問い合わせ先：リーかあさま記念館

TEL 090-5311-6760・FAX0279-88-3640

※主催者原文のまま

第22回 世界エイズ・デー記念礼拝



「カトリック HIV/AIDS デスク」ロゴ

日時：2016年12月4日（日）17：00から

場所：牛込聖公会聖バルナバ教会

メッセージ：八木 靖之氏

（日本基督教団聖蹟桜ヶ丘教会牧師）

東京教区人権委員会・ルーテル HIV/AIDS プロジェクト・

日本キリスト教団新宿コミュニティ教会・

カトリック中央協議会 HIV/AIDS デスク 共催

問合せ：人権委員会 090-8593-6129（佐々木）

守大助さんに手紙を

仙台北陵クリニックえん罪事件で、再審
請求を戦っている守大助さんに ひとこ
と励ましのメッセージを送ってください。

[宛先] 〒264-8585

千葉県千葉市若葉区貝塚町 192

面会

新しい人と出会った

いっぱい勇気を今日もいただいた

いただいたばかりの 僕は

誰かに 何かを

あたえて いるだろうか

今日も 新しい人と 出会う

（守大助さんの塀の中の詩より）